

災害支援活動

1 埼玉ブロック協議会人的支援

4月27日 埼玉ブロック協議会は、岩手ブロック協議会(社)北上青年会議所の要請を受けて、今回(社)朝霞青年会議所と(社)入間青年会議所の協働で岩手県釜石市の旧第一中学校の避難所にて炊出しを行いました。

釜石市は壊滅的な状況であり、自衛隊と警察の多くの方々が、復興活動に従事しておられました。この方々なくして、復興作業は、不可能だと強く感じました。今回、炊出しに入った避難所の方々は、家財全てを津波に流された方々であり、若い世代の方は、仕事を求め県外に出て行かれており、避難所にはお年寄りと子ども達が残り、130人が生活をしているということでした。

また、行政間の繋がりのなか、北九州から2名の支援隊の方を始め、秋田県横手市からも2名が避難所の中にテントを張って避難者の健康管理や心のケア、行政間とのパイプ役として活躍し、彼らは避難者の方々の支えとなっています。また、岩手ブロック(社)北上青年会議所のメンバーは自らも被災者でもある環境の中で、その活動エリア内の避難所をそれぞれが担当し、県外からのボランティアとの調整を中心に連日活動されています。その使命感を感じました。

2 被災地青年会議所の声 【(社)北上青年会議所 菊池 隼君】

埼玉ブロック協議会の皆様こんにちはこれまでの皆様方のご支援に心から感謝申し上げます。現在岩手県内には 321 箇所の避難所に 17,159 名の避難者そして 23,511 名の在宅避難者がおります。多くの皆様にこの度ご支援を頂いておりますが、東北地区の現状を考えると現実的には関東地区の皆様継続的なご支援・ご協力をこれからも願うばかりです。よろしく願いいたします。



目次

特集記事

埼玉ブロック協議会人的支援	1
被災地青年会議所の声	2
旅館の屋上に観光船	3
被災地青年会議所の声	4
被災地からのお願い	
支援物資届いていました	
炊き出しのようす	
在宅避難者支援の必要性	

被災地大槌町のようす



3 旅館の屋上に観光船

今回の東北地方沿岸沖地震の象徴とも言える光景です。これも今回我々埼玉ブロック協議会が人的支援に向かった岩手県釜石市（おおつち）です。この地域では建物の3階の高さにまで津波が押し寄せていました。現地の幹線道路についてはこの1カ月半の間に瓦礫の撤去がなされ、車はすでに通行可能な状況でした。しかし、道路以外の住宅地等は未だ手つかずの状況です。自衛隊による行方

不明者の捜索が完了していない為であると考えられます。この日は我々が確認する限り約20名の自衛官が捜索をしていました。一日も早い行方不明者の発見を願うと共に、東北地方の各沿岸に於いてのこの捜索が未だ完了していない現状を考えた時、今回の震災の規模の大きさを再認識しました。

陸前高田では全人口の66%が被災者であり、街が街としての機能を失った状態です。

被災地からのお願い！

被災地では、ボランティアの皆さんに多くのお力添えを頂きながら1日も早い復興を目指し市民一丸となって頑張っています。これからも多くの皆様のご協力をお願いいたします。また、一方で、皆様からの支援に対するご提案をお願いしております。『こんな支援ができる！』『こんなボランティアは必要か!』など皆様の技術や能力を活かせるような支援のご提案を頂けると非常に助かります。被災地は今、これまで先人達が築き上げてきた生活環境が何も無い状況です。不必要なものが無い状況なのです。皆様の能力・技術を必要としています。

4 被災地青年会議所の声 【(社)北上青年会議所 菊池 隼君】

今、GW の関係で多くのボランティアの方々よりご支援のご協力をいただいております。大変ありがたく心から感謝申し上げます。しかし、その一方でこの連休明けのボランティアの不足が現状問題点として挙げられております。また平日のボランティアに関しても人手不足の状況が続いています。このような大きな震災被害が発生している中で、具体的な人的支援内容としては以下のような内容が挙げられます。

○避難所における炊き出し

炊き出しに於いては、それぞれの避難所によって人数は異なりますが、陸前高田では全人口の66%が被災者であり、街が街としての機能を失った状態の中で市民が力を合わせて頑張っています。これは大船渡・久慈・野田村・普代村・宮古市・大槌町・釜石市・陸前高田市がほぼ同様の状況です。皆様より支援物資は現地に届いているものの、現地では調理用水や調理施設がありません。現状では朝食は自衛隊からの配給されるおにぎり一人2個程度。昼食及び夕食は配給される弁当となっています。炊き出しの効果としては今は被災者の心のケアが挙げられます。温かい食事を避難者は本当に喜んでます。

○テント張り

各被災地・避難所などに於いて復興作業用本部テント等を張って頂きます。また復興支援者用、支援ボランティア用のテント張りなどが多くあります。

○清掃活動

被災地の清掃活動ボランティアです。大きな瓦礫等の撤去が完了した被災地の清掃です。津波によって打ち上げられた土砂も多く残っており多くのボランティアを必要としています。



支援物資届いていました!!

震災後我々埼玉ブロック協議会として行ってきた支援物資！しっかりと岩手釜石にも搬送されました。埼玉ブロック協議会3OLOMの力の結集がここ釜石にもしっかりと届いています。我々の小さな力をこれからも結集し、継続して被災地の支援を行って行きましょう。

継続して支援していくためには、少数の方々に大きな負担をかける支援ではなく、多くの方々に小さな負担をして頂く事が何よりも大切であると思います。今回の震災の復興支援は数カ月単位の短期的な支援では終わりません。数年単位の長期的な支援を行うために、人間 JC はもちろん埼玉ブロック協議会・関東地区協議会また日本 JC としての組織力を活かした支援体制を構築して行くことが大切です。

炊き出しのようす

今回の炊き出しは旧釜石第一中学校で行いました。この避難所には 130 人の被災者が避難されておりその多くは高齢者でした。

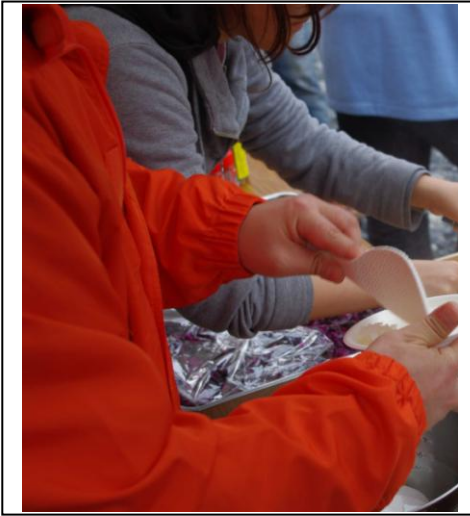
ここは現在廃校になっており校舎は耐震性に劣る為体育館が避難所になっていました。体育館も廃校となっているわけで、ガラス等は割れている箇所等があり段ボールとテープで補修されている状況でした。



炊き出しではご飯・豚汁・ハンバーグ・漬物の他、納豆を用意しました。普段の弁当のよりも品数も少なく盛り付けも決してきれいとは言えない我々の炊き出しを『おいしい』と言いながら2杯目を食べて頂ける方も多かったです。温かい食事・・・そんな当たり前の事が避難所の方には何よりのご馳走であるのだと実感しました。

在宅避難者支援の必要性

現在岩手県内には 23,511 名の在宅避難者の方がいます。避難所に通い給食や物資の提供を受けて生活しています。一部避難所では在宅者に物資が十分行き渡らないケースもあり、県は拠点となる避難所の自治組織づくりなどを通して、在宅者の支援に力を入れています。しかし、現状では個々の対応が必要であり、その為の訪問ボランティアも不足しています。



JC の組織力を最大限に活かすこと！

我々は今回発生した東北地方沿岸沖地震を経験し多くの事を学び、尚かつ後に脈々と伝えていかなければならない。

近年すでに阪神・淡路大震災そして新潟県中越地震の経験をし、JC は日本青年会議所災害復旧ネットワークを関東地区として関東地区協議会災害ネットワーク「KADS NET」を、我々埼玉ブロック協議会は災害復興ボランティアネットワーク「RUN」を構築し、それぞれが今回発動している。これらは主に日常における危機管理の啓発と災害発生時における相互支援を円滑に推進、運営することが目的である。今回のように広域で大規模な震災が発生した時、肝心なことはこの目的にあるように「組織として足並みを揃え、長期的な支援活動をいかに継続していくのか」ということに尽きる。

支援を行う側が経済的・体力的に途中で倒れてしまう訳にはいかないのである。我々青年会議所は全国に 708 もの JC が約 3600 名の会員から成り、世界中には 107 ヶ国に 17 万人、OB は 250 万人もの組織である。この JC の組織力を最大限に活かし、長期的な支援を継続していく事が求められている。

今回の災害復興に対し、我々(社)入間青年会議所は使命感を持って臨んで行きたい。

(社)入間青年会議所

[会社住所]埼玉県入間市高倉
4-4-3

[電話番号] 04-2965-8858

[FAX 番号] 04-2965-8857

[電子メール アドレス]

irumajc@ictv.ne.jp

【スローガン】

『飛躍』～一元三流の精神を
抱いて～

[Web サイトのアドレス]

<http://iruma.jp/jc/>

